

編集後記

第28巻2号をお届けします。今回は、スムーズに原稿が集まり、大きな遅れなく編集作業を行うことができました。

さて、巻頭言にはギリシャの Aristotle 大学の Anthemidis 博士にご寄稿いただきました。同氏は、来年9月23日から28日までギリシャの Thessaloniki で開催されます第12回フローアナリシス国際会議の実行委員長をお務めになります。この会議への歓迎のメッセージをいただいています。ギリシャという言葉からは、オリンピックの発祥の地で、神話や古代哲学、世界史の授業で習った遺跡などを想像しますが、まだ訪問のご経験のない方には一度は訪問してみたい国の一つではないかと思えます。昨今のギリシャの経済情勢に関するニュースを耳にしますと、大変な状況のようですが、無事に開催されることを願っているところです。また、国内からの巻頭言としては、九州大学の吉村先生にご寄稿いただきました。同氏はイオン交換樹脂などの固相を利用して金属イオンなどを高感度に分光分析する方法を開発され、これを流れ系にうまく利用され、大きな成果を挙げておられます。本年度の分析化学会賞受賞講演は記憶に新しいところです。

指標欄には、横浜国立大学の中村栄子先生にご寄稿いただきました。フローインジェクション分析法の JIS への導入については大変ご尽力をいただくとともに、前号の報告欄にも書いていただきましたように、9つの分析項目に利用されるようになっており、指標欄には FIA 法のますますの普及の期待が込められています。

昨年岡山大学をご退職になられ、本会誌の編集委員としてもご尽力をいただいています大島光子先生にパーソナルレビューをご寄稿いただきました。本研究懇談会の元委員長でありました本水昌二先生のもとで事務局を運営されてこられたご苦労話も述べ

られています。

ミニレビュー欄には、福岡県工業技術センターの塚谷氏と崇城大学に移られました松本先生に、食品中の有機酸類のフローインジェクション分析法について、長年の研究成果をおまとめいただきました。酵素カラムを用いて多成分を同時に選択的に測定する技術が開発されています。

今回は7報の学術論文の投稿がありました。

トピックス欄には、トピック担当幹事の樋口博士のご依頼に応じて、大阪府立大学の床波先生、高知大学の島村先生からご寄稿をいただきました。

報告欄は本年7月にポーランドのクラコフで開催されました17th ICFIA の実行委員長の Koscielniak 博士と同事務局で実務をされた Kozak 博士から、会議の報告をいただきました。掲載された写真から先日の会議が思い出されます。

国内の学会情報は、徳島大学の田中秀治先生にお願いしました。また、FIA Bibliography は神奈川工科大学の飯田泰広先生にお願いしています。多くの論文を集めていただき、お礼申し上げます。

今後とも、会員の皆さまからの多くのご寄稿をお願いするとともに、この会誌が本会員の皆様方の情報交換の場になることを希望しております。

JFIA 編集委員長 今任稔彦